

## 研究の名称

当院回復期重度片麻痺患者における退院先に関連する因子について  
～FIM と基本動作に着目して～

### 1. 研究の対象

2016年11月から2026年2月までに当院回復期リハビリテーション病棟を退院した脳卒中重度片麻痺患者（Brunnstrom Recovery Stage 下肢Ⅱ以下）であり、入院前に自宅で生活していた患者のうち、4-4に示す退院時の基本情報・FIM・基本動作の調査が困難であった者を除外した70名程度を対象とする。

### 2. 研究目的・方法

#### 2-1. 研究目的

脳卒中は、脳血管の閉塞や破裂により、突発的な神経症状と脳組織壊死を来す障害である。当院回復期リハ病棟では、2022年（1月～6月）患者数の約40%が脳血管疾患患者<sup>1)</sup>であり、高い割合を占めている。

脳卒中患者は、運動麻痺・感覚障害・言語障害・高次脳機能障害などさまざまな要因で日常生活動作（以下：ADL）に影響を与え、これらが退院先に影響する。

退院先は自宅、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、ケアハウスなどさまざまである。

退院先に関連する因子として、先行研究では自宅退院群は長期療養施設群と比較し、Barthel index（以下：BI）が高い、家族数が多い、介護力が高い<sup>2)</sup>と報告されている。また、脳卒中患者の在宅復帰には、Functional Independence Measure（以下：FIM）運動項目57.7点、FIM認知項目23.5点以上の能力が必要である<sup>3)</sup>との報告があり、ADLの得点は自宅へ退院するにあたり重要な要素として考えられる。脳卒中患者を対象にした多くの報告は、退院時のBIの総得点やFIM運動項目・認知項目の総得点を指標としており、BIやFIMのどの項目が自宅退院を阻害しているのかが不明である。また、寝返り・起き上がり・座位保持・起立・立位保持（以下：基本動作）を指標とするものは少ない。

本研究は、ADLと基本動作に焦点を当て、退院時のFIM各項目、基本動作の中でどの項目が自宅への退院を阻害するののかについて検証し、退院先に関連する因子について明瞭化することを目的とした。

1) 小山田記念温泉病院：回復期リハビリテーション病棟、

[http://www.syutakai.jp/htm\\_oya/kaihukukid.html](http://www.syutakai.jp/htm_oya/kaihukukid.html)（参照 2026-04-02）。

2) 近藤克則, 他: 脳卒中リハビリテーション患者の退院先決定に影響する因子の研究 多重ロジスティックモデルによる解析, 第 46 巻 日本公衛誌 第 7 号

3) 浜岡克伺, 他: 脳卒中患者の在宅復帰に必要な基準値  
—Functional Independence Measure を用いた検討—,  
理学療法科学 29 (6) : 933-937, 2014

## 2-2. 研究方法

### ◇研究のデザイン

当院回復期リハビリテーション病棟を退院した脳卒中重度片麻痺患者を対象とし、基本情報、FIM の各項目、基本動作を電子カルテから抽出し後方視的に調査を行う。

### ◇統計解析の方法

①自宅退院群と施設退院群の比較を行う。

年齢には t 検定、性別と同居の有無にはカイニ乗検定を用いる。

②退院時 FIM・基本動作には、2 群間の比較に Mann-Whitney U 検定を用いる。

③有意差を認めたものに対して、spearman の順位相関係数を用いる。

### ◇研究期間

研究開始時期 承認日

研究終了時期 承認日より 6 ヶ月

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

以下の項目を電子カルテから調査します。対象者に新たに評価は行いません。

① 基本情報 (年齢、性別、BMI、在院日数、同居の有無、病型)

②退院時 FIM

食事・整容・清拭・更衣 (上半身)・更衣 (下半身)・トイレ動作

排尿管理・排便管理・車椅子移乗・トイレ移乗・浴槽移乗・歩行・階段

理解・表出・社会的交流・問題解決・記憶

※全 18 項目の各項目を評価する。

③退院時基本動作

寝返り・起き上がり・座位保持・立ち上がり・立位保持

※自立・一部介助・全介助の 3 段階で評価する。

#### ④退院時心身機能

Brunnstrom Recovery Stage 下肢

\*全ての評価項目は入院中に記録された結果を後方視的に電子カルテから抽出する

#### お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

医療法人社団主体会小山田記念温泉病院

リハビリテーションセンター 理学療法士 岸田 知也

〒512-1111

三重県四日市市山田町 5538-1

Tel 059-328-1260

Fax 059-328-3040

研究責任者：岸田 知也